

訂正公開日 H29. 4. 28
 H29. 6. 23
 H29. 7. 3
 H29. 9. 7
 H30. 6. 14
 R 1. 7. 17
 R 1. 11. 29

2級情報部門問題集訂正内容

訂正日 H29. 4. 28およびH29. 9. 7：(奥付：平成28年3月16日初版 をご利用の方は、訂正内容をご確認ください。)
 訂正日 H30. 6. 14：(奥付：平成29年9月27日改訂版 第2刷 をご利用の方は、訂正内容をご確認ください。)
 訂正日 R 1. 11. 29：(奥付：平成29年9月27日改訂版 第2刷より前の書籍をご利用の方は、訂正内容をご確認ください。)

正誤および修正

頁	場所	修正元	重版時修正	訂正公開日
37	下から3行目	出力危機	出力機器	H29. 4. 28
41	各所	nS	ns	
117	補足説明	ターンアラウンドタイム	ターンアラウンドタイム	
123	頁中程以降	H (S)、H (X)	H (P)	
127	既出問題1	…シンドロームは、(100) になる。	…シンドロームは、(011) になる。	
139	表	番号1に網掛け	番号1は網掛けせず、番号6に網掛け。	
2他	章項目	データ表現と2進演算	データ表現と2進数	H29. 9. 7
2	解説2行目	Least Significant bit	Least Significant Bit	
19	補足説明	真理値表から乗法標準形の求め方	真理値表から特殊乗法標準形の求め方	
20	補足説明	真理値表から加法標準形の求め方	真理値表から特殊加法標準形の求め方	
29	表中	命令のアドレス指定でアドレブ部に対して～	命令のアドレス指定でアドレス部に対して～	
30	既出問題2	①主記憶上の連続した配列～	①主記憶上に連続して配列～	
35	選択欄	(エ)命令の実効サイクル数を均一にするため、パイプライン処理に向いている	(エ)命令の実行サイクル数を均一にできるため、パイプライン処理方式に向いている	
41	補足説明	m S	m s	
43	補足説明	S S D記憶容量 数百G B	S S D記憶容量 ～数千G B (数T B)	
43	補足説明	S D記憶容量 数十G B	S D記憶容量 ～数百G B	
43	補足説明	C F記憶容量 数十G B	C F記憶容量 ～数百G B	
43	補足説明	U S B記憶容量 数十G B	U S B記憶容量 ～数千G B (数T B)	
43	補足説明	H D D記憶容量 数T B	H D D記憶容量 ～数T B	
66	要点	トークンパッシング方式	トークンパッシング方式	
66	要点	TCP/IPI	TCP/IP	
69	表中ホスト数	1 2 7. 6 3. 3 1. 1 5. 7	1 2 6. 6 2. 3 0. 1 4. 6 (無駄になるホスト数も同様に-1)	
99	クイズ	～ $O(n \log 2n)$ である。	～ $O(n \log n)$ である。	
109	補足説明	DDL:Data Dfinition Language	DDL:Data Definition Language	
113	既出問題2	次の図のような～システムの信頼性はいくらか。～	次の図のような～システムの信頼度はいくらか。～	
115	問題3、解説	平均故障時間 (時間/件)	平均故障間隔 (時間/件)	
117	補足説明	オーバヘッド	オーバーヘッド	
120	既出問題2	②全般テストは～	②全数テストは～	

87	図4			H30.6.14
68	既出問題	クラスCのIPアドレスを分割して、20個のサブネットを使用する～	クラスCのIPアドレスを分割して、20個のホスト数を使用する～	R 1.11.29

2級制御部門問題集訂正内容

訂正日 H29.4.28および訂正日 H29.7.3:(奥付:平成28年3月16日初版 第2刷より前の書籍をご利用の方は、訂正内容をご確認ください。)

訂正日 R 1.7.17:(奥付:平成30年3月6日改訂版 第3刷より前の書籍をご利用の方は、訂正内容をご確認ください。)

正誤および修正

頁	場所	修正元	重版時修正	訂正公開日
15	問題	$(n - \frac{1}{2})\Delta \leq x < (n - \frac{1}{2})\Delta$	$(n - \frac{1}{2})\Delta \leq x < (n + \frac{1}{2})\Delta$	H29.4.28
iii	目次	付録ページ表記 (1)【2重積分型A-D変換機】……122	付録ページ表記 (1)【2重積分型A-D変換機】……125 以降、すべて3ページずれがあります。	H29.7.3
63.73	問題・解説	最終値定理の式にある $\lim_{s \rightarrow 0}$	最終値定理の式 $s=0$ はすべて $s \rightarrow 0$ $\lim_{s \rightarrow 0}$	R 1.7.17

3級問題集訂正内容

訂正日 H29.4.28:(奥付:平成28年3月16日初版 をご利用の方は、訂正内容をご確認ください。)

訂正日 H29.7.3:(奥付:平成29年5月1日改訂版 第2刷より前の書籍をご利用の方は、訂正内容をご確認ください。)

正誤および修正

頁	場所	修正元	重版時修正	訂正公開日
6	要点	・交流のベクトル表示の意味とベクトル図…	・交流のベクトル表示の意味とベクトル図…	H29.4.28
7	頁下部	Vの大きさ $V = \sqrt{V_R^2 + V_C^2} = \sqrt{12^2 + 9^2} = 30[V]$	Vの大きさ $V = \sqrt{V_R^2 + V_C^2} = \sqrt{18^2 + 24^2} = 30[V]$	
8	選択欄	① $e = 100\sqrt{2}\sin\cdots$	① $e = 141\sin\cdots$	
11	選択欄	⑥ 選択肢なし	⑥ 直流増幅作用	
12他	各所	h_{fe}	h_{FE}	
17他	各所	mS、nS	ms、ns	
25他	各所	V_i, V_f	V_i, V_f	
26他	各所	図1、図2、表1、表2	特に必要ない数字や表記は、「図」のように簡略、もしくは削除した。	
30	解説	②は、2進数を半導体回路で…	②は、10進数を半導体回路で…	H29.7.3
33	既出問題3	式2行目 $= (1110)_2 + \boxed{2} - (10000)_2$	式2行目 $= (1110)_2 + (\boxed{2}) - (10000)_2$	
33	解説	$\begin{array}{r} 10000 \\ - 0011 \\ \hline 1101 \end{array}$	$\begin{array}{r} 10000 \\ - 0011 \\ \hline 1101 \end{array}$	H29.4.28
34	解説	ASCII(American Standards…)	ASCII(American Standard…)	
34	解説	JIS(Japanese Industrial Standard)	JIS(Japanese Industrial Standards)	
41	7行目	$A + (A \cdot B) = A$	$A + A \cdot B = A$	
48	要点	・マルチプレサ、デマルチプレサ	・マルチプレクサ、デマルチプレクサ	

54	解説	T-F F (trigger FF)	T-F F (Toggle FF)	
62	既出問題 1	CPI(cycles per instructon)	CPI(cycles per instruction)	
68	クイズ⑤	0.02 μ S、50KHz	0.02 μ s、50kHz	
68	答え	④ 誤	④ 正	
69	選択欄	① …データは記憶され、アクセスタイムが高速なのが特徴である	① …データを記憶し、アクセスタイムが短いという特徴を持つ	
69	選択欄	⑤ …利用される。	⑤ …利用されることが多い。	
70	解説 1 行目	EEPROM(Electrical Erasable…)	EEPROM(Electrically Erasable…)	
85	選択欄	⑥ 選択肢なし	⑥ Ruby	
86	解説追加		Ruby は、個人が開発したオブジェクト指向スクリプト言語でフリーソフトウェアです。	
91	図	図 1 命令の実行順序	図 2 命令の実行順序	H 2 9 . 4 . 2 8
109	1 行目	契約を結ぶ必要がある。	契約を結ぶのが一般的です。	
120	図 3	クラス A クラス識別用固定値 = 1	クラス A クラス識別用固定値 = 0	H 2 9 . 7 . 3
117	TCP/IP の プロトコル	FTP, TELNET…	HTTP, FTP, TELNET…	
140	1 行目	標本化(Samplihg)	標本化(Sampling)	H 2 9 . 4 . 2 8
141	図	符号化の原理の図記号 図 (a) 図 (b)	符号化の原理の図記号 図 (c) 図 (d)	

4 級問題集訂正内容 (奥付：平成 28 年 3 月 16 日初版 第 2 刷より前の書籍をご利用の方は、訂正内容をご確認ください。)

正誤および修正

頁	場所	修正元	重版時修正	訂正公開日
18	解説	<p>～エミッタ電流はほとんどがコレクタ電流ですから、</p> $I_E = \alpha I_C$ <p>と表わしたときの右辺の係数 α は通常 0.9～0.995 程度の値となります。</p> <p>この式を上の式に代入して問題の I_C/I_B を求めると</p> $\frac{I_C}{I_B} = \frac{\alpha}{1-\alpha}$ <p>となりますが、この式の右辺を電流増幅率と呼んで h_{FE} で表します。</p> <p>α の値を 0.9～0.995 とすれば、h_{FE} の値は 10～200 となります。</p>	<p>～エミッタ電流はほとんどがコレクタ電流になります。</p> $I_C = \alpha I_E$ <p>と表わしたときの右辺の係数 α (ベース接地電流増幅率) は通常 0.9～0.995 程度の値です。</p> <p>この式を上の式に代入して問題の I_C/I_B を求めると</p> $\frac{I_C}{I_B} = \frac{\alpha}{1-\alpha}$ <p>となりますが、この式の右辺を(エミッタ接地)電流増幅率と呼んで h_{FE} で表します。</p> <p>α の値を 0.9～0.995 とすれば、h_{FE} のおよその値は 10～200 となります。</p>	H 2 9 . 6 . 2 3
iii	目次	付録ページ表記 (1) 【ダイオードによる論理回路】 …… 1 2 5	付録ページ表記 (1) 【ダイオードによる論理回路】 …… 1 2 7 以降、すべて 2 ページずれがあります。	H 2 9 . 7 . 3

*各書籍とも、文言の細かい修正やイタリック修正など、問題・解説に大きな相違が発生しない場合につきましては、上記修正内容に含まず修正している場合があります。